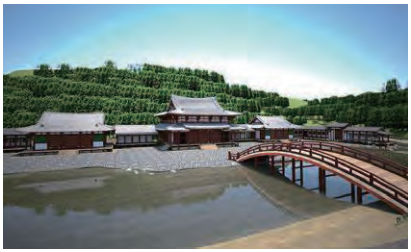
## 1192(建久3)年

### 永福寺跡　開基／源頼朝

**二階建ての本堂や大きな池などの跡が**


史跡永福寺跡復元CG(湘南工科大学制作)

奥州合戦で源頼朝は藤原泰衡に圧勝。そのときに頼朝が見た平泉・中尊寺の二階大堂大長寿院を模して創建したのが永福寺です。二階堂という地名もそのお堂から。発掘調査をもとに建物基壇の復元整備が行われ、当時の伽藍配置や苑池などを見ることができます。

## 1200(正治2)年

### 寿福寺　開基／北条政子　開山／明庵栄西(ようさいともいう)

**北条政子が眠る、鎌倉五山第三位の寺**

栄西は二度宋に行った高名な僧。茶を日本に広めたのも栄西です。禅宗を勧めたために、天台宗の比叡山延暦寺からの圧力を受け、59歳で鎌倉に来た栄西を、源頼家や北条政子、実朝は歓迎しました。山門から石畳の参道が中門まで続いています。拝観は中門まで。

## 鎌倉を深掘り

### 埋蔵文化財でわかる中世都市鎌倉の暮らし

鎌倉では建物などを建築する際、埋蔵文化財の調査を行うため、中世の遺跡が見つかることがあります。遺跡から出土する、陶磁器、漆の塗り物、木製品などから、中世の人々の暮らしが想像できます。2017(平成29)年扇ガ谷に開館した鎌倉歴史文化交流館では、それらの出土品から、鎌倉の歴史と文化を紹介しています。

**鎌倉歴史文化交流館／かまくられきしぶんかこうりゅうかん**
鎌倉市扇ガ谷1-5-1　☎0467-73-8501

## 1219（承久元）年

### 成就院　開基／北条泰時

**季節の花が迎えてくれる眺望の寺**

空海が諸国巡礼の折、修法を行ったという場所に北条泰時が建立した寺。本尊は不動明王で、良縁成就の寺として知られています。由比ヶ浜を眺め下ろせる眺望の良さが特色です。

本尊の不動明王の分身前で護摩供養が行われる



## 1235（嘉禎元）年

### 明王院

**開基／藤原頼経　開山／定豪**

**鎌倉時代の特徴をよく表している明王像**

茅葺き屋根に蔀戸の情緒ある本堂が迎えてくれる、静かなお寺です。本堂には、不動明王など5体の明王を祀っています。かつては、鎌倉幕府や将軍の鬼門よけの祈願所でもありました。

茅葺きの屋根が、周りの谷戸の緑となじむ

## 1241（仁治2）年

### 朝夷奈切通

**往時の面影を残す、金沢街道の切通**

源頼朝に仕えていた中でも優秀な武士として名をはせた朝比奈義秀が、一晩でつくったという伝説がある朝夷奈切通。この切通は六浦（現在の横浜市金沢区）と鎌倉を結ぶ重要な交通路だった金沢街道の一部でした。現在も自動車が通れないこの切通は、中世のやぐらなどもあり昔の面影を残す場所。六浦は貿易港で塩の産地でもあり、朝夷奈切通は鎌倉へ塩などの物資を運ぶための道としても使われていました。

## 1243（寛元元）年

### 光明寺　開基／北条経時　開山／然阿良忠

**材木座海岸に近い、広々とした境内**

鎌倉の大きな寺院のひとつに挙げられる光明寺。北条経時が開基となり、関東の浄土宗念仏道場の中心となりました。山門は鎌倉にある寺院の門として最大です。境内も広々としていて、大殿（本堂）も鎌倉一大きい木造建築で、国の重要文化財に指定されています。本堂北側には蓮池を中心とした記主庭園、南側には石庭があります。裏山に登ると、木々の間から材木座海岸や稲村ヶ崎、遥かには富士山を眺められます。

光明寺の記主庭園。7月にはハスの花を観賞する観蓮会が開かれる



文学者の足跡

**山口瞳**　1926（大正15）年～1995（平成7）年

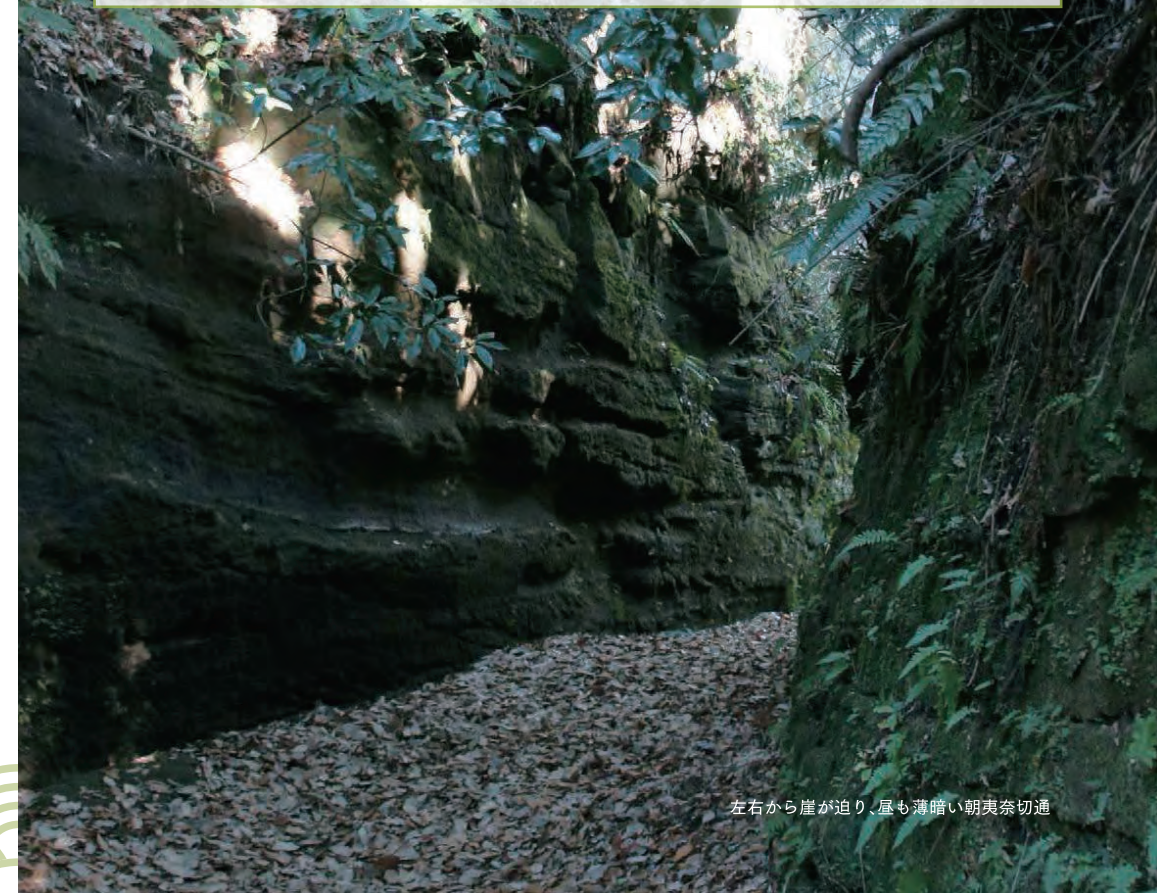
第二次世界大戦後間もない1946（昭和21）年、光明寺を仮校舎として「鎌倉アカデミア」が開校。卒業生には、映画監督の鈴木清順、作曲家のいずみたく、作家の山口、タレントの前田武彦ら。山口は、この学校で歌人の吉野秀雄に学び、後に『江分利満氏の優雅な生活』で直木賞を受賞しました。

## 鎌倉を深掘り

### 鎌倉を特徴づけている切通という場所

三方を山に囲まれた鎌倉の地形は、鎌倉が幕府所在地として選ばれた理由のひとつといわれています。当時の鎌倉は、10万人もの人が住む都市として栄え、多くの人や物資が行き来するために山を切り開いて道を通しました。今も残る切通は、中世からの道です。武蔵と結ぶ「亀ヶ谷坂」「仮粧坂」「巨福呂坂」、藤沢、京都方面と結ぶ「大仏切通」「極楽寺坂切通」、三浦半島へと通じる「名越切通」、六浦（現在の横浜市金沢区）への交通路「朝夷奈切通」は「鎌倉七口」と呼ばれ、鎌倉が外部とつながる重要な道でした。比較的軟らかい凝灰岩の鎌倉石は削りやすく、切通を歩くと岩肌を目前に見ることができます。

※巨福呂坂は通り抜けできません



左右から崖が迫り、昼も薄暗い朝夷奈切通

この宝篋印塔は鎌倉時代後期～南北朝期の作
※裏山にある冷泉為相の墓。木・土・日曜の公開

## 1251（建長3）年

### 浄光明寺　開基／北条長時、北条時頼　開山／真阿

**扇ガ谷にある静かな古寺**

北条氏や足利氏の菩提寺。収蔵庫には鎌倉時代の阿弥陀三尊像が祀られ、鎌倉独特の土紋装飾が特徴です。山中に、『十六夜日記』の作者・阿仏尼の息子、冷泉為相の墓といわれる宝篋印塔があります。

## 1253（建長5）年

### 安国論寺　開山／日蓮

**名越の松葉ヶ谷で日蓮の足跡をたどる**

日蓮が鎌倉で構えた庵の跡に立つ寺。境内の岩屋で『立正安国論』を書いたといわれ、政治と既存仏教の問題点を北条時頼に訴えました。富士見台からは、鎌倉駅方面から由比ガ浜、遠くは伊豆半島や富士山まで見えます。

鎌倉らしい趣が色濃く残る境内では、四季折々の花が楽しめます。

本堂。右手に山道があり、南面窟に至る



## 鎌倉を深掘り

### 武士の宗教・禅宗

源氏三代が滅びると、執権として幕政を担うことになった北条氏は、当時最先端の禅宗や中国文化を取り入れるため、現在の北鎌倉に禅宗寺院を次々と創建。蘭渓道隆や無学祖元など宋から来朝した僧を呼んで開山としました。座禅を組んで精神統一を図り、悟りを得ようとする禅は、修行をして初めて救いが得られるという点で、日々鍛錬が必要な武士の信条と共通するものがあり、武士に受け入れられていきました。

## 1259（正元）年

### 極楽寺　開基／北条重時　開山／忍性

**貧しい人々を助けた、慈悲の寺**

鎌倉では珍しい真言律宗の寺院。開山の忍性は、福祉や医療、さらには橋や道の整備など幅広い分野の社会事業を行っていました。かつては広い敷地をもち、加療・施薬をする病院施設もあったことが古絵図に描かれています。また、元（モンゴル帝国）が日本に襲来したとき（元寇）、幕府・朝廷の命令で、忍性は異国退散の祈祷を行っています。

茅葺きの山門を入ると、サクラ並木がある



## 1260（文応）年

### 妙本寺　開基／比企能本　開山／日蓮

**比企一族の悲劇を伝える谷戸**

源頼朝に仕えた比企一族が北条時政に滅ぼされた際、生き残った比企能本が日蓮に寄進した自邸跡でもあります。初夏のシャガ、秋の紅葉が見事。事前に予約すれば、写経体験ができます。

祖師堂は重量感ある瓦屋根と力強い構造が特徴

春の日の大仏（銅造阿弥陀如来坐像）

## 1252（建長4）年

### 鎌倉大仏　開基・開山／不詳
（銅造阿弥陀如来坐像）

**美男と評判の仏を訪ねる**

鎌倉大仏は国宝。つくられた当時の姿をほぼ保っているものの、1252（建長４）年に鋳造が開始されたこと以外は謎につつまれています。初めは木造だった大仏を青銅仏にしたといい、胎内に入ると高度な鋳造技術がうかがえます。現在は露坐の大仏ですが、もともとは大仏を覆う大仏殿がありました。鎌倉幕府が滅びた後、台風や大津波により倒壊したといわれています。境内のあちらこちらに残る礎石から、大仏殿の規模が想像できます。

**与謝野晶子**
1878（明治11）年～
1942（昭和17）年

歌人の与謝野晶子は〈かまくらや みほとけなれど 釈迦牟尼は 美男におはす 夏木立かな〉と詠みました。その歌碑が高徳院境内にあります。

文学者の足跡

## 鎌倉を深掘り

鎌倉大仏を側面から見ると、ずいぶん前かがみなのがわかります。鼻が高く、エキゾチック。自然なふくよかさで人間らしいお顔です。姿勢や顔立ちは中国（宋）の影響を受けています。



## 1253（建長5）年

### 建長寺　開基／北条時頼　開山／蘭渓道隆

**五山一の威容を誇る禅宗大寺院**

鎌倉五山第一位、臨済宗建長寺派の本山。宋から来日した蘭渓道隆が禅を広めた寺で、幕府と強く結び付きました。本尊は地蔵菩薩坐像です。堂々とした三門、仏殿、法堂が一直線に並び、道隆が種をまいたというビャクシンの巨木がそびえます。野菜や豆腐入りのけんちん汁はここが発祥といわれています。毎週金・土曜に坐禅会があります。

本尊地蔵菩薩坐像を祀る仏殿

## 1282（弘安5）年

### 円覚寺　開基／北条時宗　開山／無学祖元

**谷戸の奥へと続く、鎌倉らしい趣**

二度の元寇（元との戦い）で亡くなった両軍の兵士を弔うため、第8代執権北条時宗が宋から無学祖元を招いて建てた禅宗寺院。臨済宗円覚寺派の本山で、鎌倉五山の第二位。本尊は宝冠釈迦如来坐像。妙香池、白鷺池などの池があり、国の名勝に指定されています。国宝の舎利殿は、室町時代の名建築・大平寺（廃寺）の仏殿を移築したもの。早朝や土・日曜に坐禅会が開かれます。

仏殿の宝冠釈迦如来坐像は、冠をいただく珍しい姿

円覚寺の山門

文学者の足跡

### 夏目漱石

1867（慶応3）年～1916（大正5）年

小説家の夏目漱石は、円覚寺へ参禅の際、円覚寺塔頭帰源院へ止宿。

〈山門を入ると、左右には大きな杉があって、高く空を遮っているために、路が急に暗くなった。その陰気な空気に触れた時、宗助は世の中と寺の中との区別を急に覚った。〉（『門』夏目漱石）

文学者の足跡

### 島崎藤村

1872（明治5）年～1943（昭和18）年

島崎藤村も円覚寺塔頭帰源院に滞在した経験をもつ小説家です。『春』『桜の実の熟する時』に、鎌倉の風景や人々が描かれています。藤村が鎌倉を訪れるようになったのは、「文學界」同人の星野天知の別荘があったためでした。

## 1281（弘安4）年

### 浄智寺　開基／北条宗政、北条師時　開山／兀庵普寧、大休正念、南洲宏海

**山寺のような風情の参道が心を静める**

鎌倉五山の第四位。北条時頼の子・宗政の菩提を弔うために建てられた臨済宗円覚寺派の寺です。1323（元亨3）年に行われた北条貞時13回忌の際、参加した僧侶は200人を超え、建長、円覚、寿福の三寺に次ぐ規模を誇りました。仏殿の阿弥陀如来、釈迦如来、弥勒如来の三世仏は県の重要文化財、境内は国の史跡に指定されています。境内には鎌倉一の大きさのコウヤマキやハクウンボクがあります。小説家・澁澤龍彦の墓があることでも知られています。

過去現在未来を示す三世仏は、鎌倉時代の特徴を表す

鎌倉七福神のひとつ、布袋像がやぐらの中に

## 1285（弘安8）年

### 東慶寺　開基／北条貞時　開山／覚山尼

**宝蔵も見学したい四季折々の花の寺**

江戸時代は「駆込み寺」として広く知られていました。開山の覚山尼は北条時宗の妻。後醍醐天皇の皇女・五世用堂尼以来、一層寺格が高まり、江戸時代には徳川幕府の庇護を受けました。寺宝を展示する松岡宝蔵も必見。

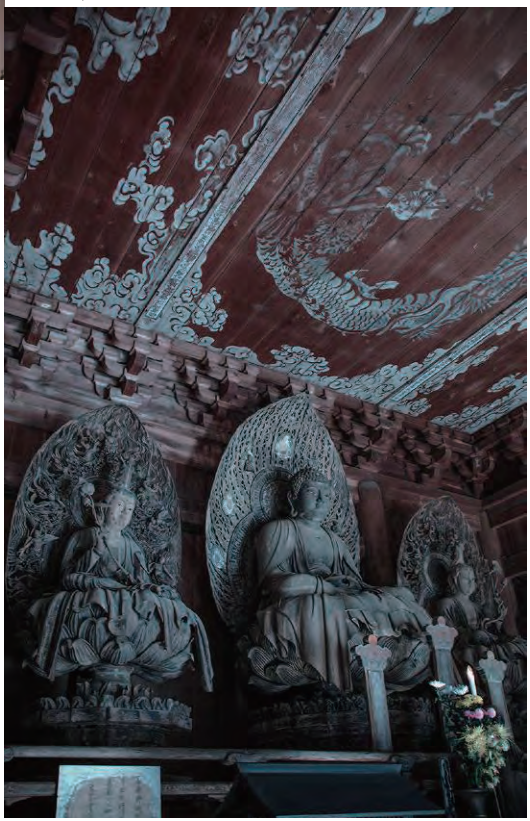
控えめな山門をくぐると、四季の花が迎えてくれる

## 1296（永仁4）年

### 覚園寺　開基／北条貞時　開山／智海心慧

**茅葺きのお堂に心和む境内**

2代執権北条義時が十二神将の戌神将のお告げを受けて建立した薬師堂を前身とする寺院です。本尊は薬師如来で、鎌倉時代の様式です。参拝は時間制で、案内してくれます。



本尊は薬師三尊像、周りには十二神将が並ぶ

## 1327（嘉暦2）年

### 瑞泉寺　開山／夢窓疎石

**梅、水仙、新緑などが美しい花の寺**

足利基氏をはじめ、代々の鎌倉公方の菩提寺として、高い格式を誇りました。夢窓疎石が岩盤を削ってつくった岩の庭は、書院庭園のもととなり、国の名勝に指定されています。竹林やモミジでも知られています。

モミジが多く、錦屏山という山号もそれにちなむ

**山崎方代**

1914（大正3）年～1985（昭和60）年

文学者の足跡

放浪の歌人・山崎方代は、鎌倉・手広の「方代草庵」に住みました。瑞泉寺には、〈手のひらに 豆腐をのせて いそいそと いつもの角を 曲りて帰る〉の歌碑があります。

### 大町釈迦堂口遺跡

**風が通り抜けていく切通**

大町から浄明寺に向けてトンネルが掘られています。トンネルの上部も含め周辺には数多くのやぐらがあります。現在は土砂崩れの危険があるので、通行禁止です。

## 1334（建武元）年

### 報国寺　開基／足利家時　開山／天岸慧広

**風に鳴る竹の葉の音が印象的**

古くから境内の孟宗竹の林が有名で、「竹庭の寺」と呼ばれています。本尊は釈迦如来坐像。開山の天岸慧広は元に留学した僧で、慧広自筆の詩集『東帰集』は、国の重要文化財になっています。

竹に見とれるひととき。裏山にやぐらが点在する

## 1335（建武2）年

### 宝戒寺　開基／後醍醐天皇　開山／円観慧鎮慈威

**初秋の白いハギの花で知られる寺**

後醍醐天皇が北条一族の霊を弔うために、足利尊氏に命じて執権北条氏の屋敷跡に建立させたといわれる寺。初秋にはシロハギが参道脇に咲き、ハギの寺として知られます。本尊は子育て地蔵として信仰される地蔵菩薩坐像（国の重要文化財）。

秋には、本堂前や参道にシロハギが咲き乱れる



文学者の足跡

**後醍醐天皇**

1288（正応元）年～1339（暦応2・延元4）年

宝戒寺は、後醍醐天皇が建てさせた寺。後醍醐天皇は鎌倉幕府を倒そうとして隠岐に流されましたが、天皇の呼びかけに応じた新田義貞によって鎌倉幕府は滅亡します。〈うづもるる 身をば歎かず なべて世の くもるぞつらき 今朝のはつ雪〉『新葉和歌集』

## 鎌倉を深掘り

### 中世に出合うやぐら、石塔

多くの谷が連なる鎌倉。「谷戸」と呼ばれる谷の斜面を削って掘った、やぐらをよく目にします。これは中世に造られたもの。やぐらは僧侶などの支配層の埋葬や供養の場で、壺に入れられた火葬骨が五輪塔などとともに納められています。覚園寺、浄光明寺、瑞泉寺など谷に建てられた寺の裏に多くあります。主なやぐらには北条政子や源実朝の墓といわれる寿福寺やぐら群、仏像や五輪塔などが刻まれている瓜ヶ谷やぐら群、覚園寺奥の百八やぐら群などがあります。

浄光明寺の網引地蔵やぐら

## 鎌倉を深掘り

### 力強さから中国風へ —— 鎌倉時代の美は個性的！

源頼朝は、鎌倉に鶴岡八幡宮、勝長寿院（廃寺）、永福寺（廃寺）などの大きな社寺を建立。京都や奈良から工人などを招いたため、鎌倉時代初期には京都の文化が鎌倉に伝わりました。

なかでも、仏像製作の中心は、奈良仏師の成朝やその流れを引く運慶です。力強い表情や量感のある体つきの仏像を作りだした運慶とその一門の仏師は、鎌倉の武士たちに支持されました。

その後、5代執権北条時頼が、宋から渡航した中国僧・蘭渓道隆を招いて建長寺を開いたのが契機となり、禅文化が入ってきました。日宋交易によって、宋ブームが起こります。宋風の彫刻は、人間らしい表情や複雑で流れるような衣服、異国情緒が特徴で、13世紀半ばから14世紀にかけて、鎌倉と関東地方の仏像の主流になりました。代表的なものには、円応寺の「初江王坐像」（国重要文化財、鎌倉国宝館寄託）、浄光明寺の「阿弥陀如来および両脇侍坐像」（国重要文化財）などがあります。

同じ時期に頂相彫刻が生まれました。頂相とは印可状（悟りを認める証明書）とともに弟子に与えられた禅の師の肖像画で、その彫刻版が頂相彫刻です。円覚寺「仏光国師坐像」（国重要文化財）、建長寺「大覚禅師坐像」（国重要文化財）、瑞泉寺「夢窓国師坐像」（国重要文化財）など、写実を追求した表現が特徴です。

「初江王坐像」（国重要文化財）円応寺蔵